

令和7年2月19日

対馬市議会議長 初村久藏様

厚生常任委員会

委員長 島居真吾

委員会調査報告書

会議規則第106条の規定により、委員派遣を要求し承認されていましたが、本委員会の調査について、その概要を同規則第110条の規定により報告します。

[調査概要]

1. 期 日 令和7年1月20日（月）～1月22日（水）
2. 調査先 鹿児島県志布志市役所（鹿児島県志布志市）
3. 調査事項 「5Rの推進に向けた取り組みについて」
 - ①ごみの分別収集、生ごみ堆肥化、ごみの再利用・再資源化について
 - ②使用済み紙おむつの再資源化について
 - ③廃棄物処理施設の概要について
4. 出席委員 島居委員長、入江副委員長、黒田委員、作元委員
5. 説明者 志布志市役所 市民環境課 環境政策グループ
松永 憲一 リーダー・桑水 浩紀 サブリーダー

[調査内容]

世界で初めて、使用済み紙おむつから取り出した再生パルプを配合したトイレットペーパーや紙おむつの生産、販売に取り組んでいる鹿児島県志布志市役所を訪問し、ごみの分別収集・再資源化、使用済み紙おむつ再資源化事業

についての調査を行いました。

志布志市は、令和6年12月末現在の人口が28,688人で対馬市と同規模の市であり、「美しい地球を子どもたちに～限りある資源を大切にするために～」をキャッチフレーズに、市全体でごみの分別・減量化、再資源化を先進的に取り組まれています。志布志市にはごみ焼却施設がなく、平成2年に近隣の有明町と大崎町と合同で、曾於南部厚生事務組合を設立、一般廃棄物最終処分場を建設し、すべてのごみを埋め立て処分していました。しかし、平成16年度で埋立処分場がいっぱいになる見込みとなったため、ごみの分別収集、再資源化に取り組んだ結果、現在では、臭いもなくカラスもない衛生的な環境を維持しており、あと40年以上は使用可能となり、最終処分場の延命化につながる取組となっています。

志布志市のごみの推移は、平成11年度から13品目の分別収集を開始し、平成16年度から生ごみの分別収集、平成25年度には小型家電の分別収集に取り組んだ結果、平成10年度において13,984tあった埋め立てごみが、令和5年度には2,414tと8割削減につながっています。現在では、26品目の分別収集に取り組まれており、ごみのリサイクル率は令和4年度76%で、18年連続全国第1位となっているそうです。

ごみの処理にかかる経費は、令和5年度決算において、総額3億9,415万円で、主にごみ収集運搬業務委託1億6,037万円、資源ごみ中間処理業務委託7,856万円、生ごみ・草木処理（堆肥化）業務委託6,755万円で、資源ごみの中間処理及び収集運搬により、地元によくの雇用を創出されているとのことでした。また、ごみの分別に伴う資源売り払い金や指定ごみ袋販売などによる収入は、5,172万円で、年間一人当たりのごみ処理経費は、全国平均の17,100円（令和4年度一般廃棄物処理実態調査）と比較して、志布志市は13,645円（廃棄物処理経費を人口割）、また収入を勘案すると11,854円となり、全国平均の約3分の2の経費でごみ処理を行っていることになるそうです。

世界初の紙おむつ再資源化のこれまでの取り組みについては、平成28年5月に、志布志市使用済み紙おむつ再資源化推進協議会が発足し、同年11月に、志布志市、有限会社そおりサイクルセンター、ユニ・チャーム株式会

社の3者で協定が締結され、再資源化技術の実証実験の開始と、モデル地区において使用済み紙おむつの分別収集が開始されました。平成30年4月には、大崎町を加えた4者で協定が締結され、令和6年4月から志布志市内全域及び大崎町での回収が開始されました。子育て支援や介護世帯の負担軽減を図るため、紙おむつ専用袋は10枚入り100円という低価格で販売されており、また、使用済み紙おむつは衛生面に配慮して、自治会の一般ごみステーションや各校区の公民館等に設置している紙おむつ専用回収ボックスに、いつでも排出可能となっているそうです。

志布志市と大崎町で共有している一般廃棄物最終処分場に集められる一般ごみのうち、重量比で約20%が紙おむつとされており、従来は埋め立て処分されていましたが、使用済み紙おむつの水平リサイクルを促進する取組を行った結果、令和6年4月から12月末までの使用済み紙おむつ回収実績は、123.5tとのことでした。紙おむつはパルプや高分子吸収材(SAP)、プラスチックなどの材料でできており、すべての素材の再資源化を実現し「紙おむつから紙おむつへ」の水平リサイクルが実現されています。そおりサイクルセンターに回収された使用済み紙おむつは、破碎・洗浄され、プラスチックとSAPを分離し、パルプはオゾン処理により殺菌・漂白・消臭され、未使用のパルプと同等に衛生的で安全なパルプへと再生されることでした。そおりサイクルセンター内の施設は非公開のため、見学することはできませんでしたが、ユニ・チャームが全額出資、開発した独自の技術により、環境に負荷をかけず、安全・安心の材料へ生まれ変わる循環モデルの実証段階として、使用済み紙おむつのリサイクル技術向上や取組の持続可能性などを多面的に検証されており、使用済み紙おむつの回収率の向上とコストの削減が今後の課題であるとの説明を受けました。

再生パルプから製造したリサイクル紙おむつの使用には、抵抗があることが懸念されることから、衛生的に問題ないこと、環境にやさしいことを理解していただきながら、市内の介護施設などを通じて普及啓発に努めているとともに、リサイクルされたパルプの地産地消として、市役所内のトイレのトイレットペーパーや市役所職員の名刺に利用していることでした。また、世界初、紙おむつから紙おむつへの水平リサイクルの取組による視察の増加

や、地球温暖化対策の効果による農畜水産物のイメージや認知度の向上などにより、経済効果にもつながっているとのことでした。

今回、志布志市におけるごみの分別収集・再資源化及び使用済み紙おむつの再資源化事業について視察調査を行い、「混ぜればごみ、分ければ資源です。志布志市は、今ある資源を長く使うことがSDGsにある「持続可能な社会の実現」につながっていくと考え、美しい地球を子どもたちに残すために取り組んでいます。」と、市民と一体になった循環型のまちづくりを目指した志布志市の取組とその成果は、大変興味深く参考になりました。本委員会においても、さらに調査研究を深め、本市の環境行政及び委員会審査に反映させていきたいと思っております。

以上、厚生常任委員会の調査報告といたします。

○志布志市役所 市民環境課



○資源ごみ中間処理施設

